

# 児童虐待防止映画でメッセージ

# 「子どもたちを見守って」

児童虐待がテーマの映画「地蔵調査官」が5月、高松市の社会奉仕団体の例会で上映された。同市で開催された「さぬき映画祭」シナリオコンクールで大賞を受賞した中村心太さん(32)のペンネームの作品。監督も務めた中村さんは上映会で映画に込めた思いを語った。**【佐々木雅彦】**

映画は両親から虐待された。同クラブは「子を受けて親戚の寺に子どもたちに奉仕する」を寄せている少女が主役をモットーにして人公。ある日、地蔵といることから中村さん会話できる自称・地蔵を講師に招いた。例会調査官と出会い「他では会員ら約30人が映画お地蔵様から最も尊敬画を見て、中村さんのされている地蔵」を一講演に聴き入った。緒に探すことになり、映画の少女は親から物語は虚実を超えた世愛されたことがない。界に入っていく。「最も尊敬されている中村さんは香川県東 地蔵」と出会って初め

## 監督「地蔵調査官」高松で上映会

## 中村 苦しむ現実変えたい

かがわ市在住の帝國製薬社員。「映画を作っただけで終わりがたい。子どもたちが苦しむ現実を変えたい」と高松キワニスクラブでの上映会と講演が実現



社会奉仕団体の例会で講演する映画「地蔵調査官」監督の中村心太さん—高松市で

い」と語りかけ、笑顔になる。中村さんは講演でこの場面を取り上げ、「これが皆様に伝えたいメッセージです」と話し、こう続けた。「映画をご覧いただいた一人一人が周りの子どもたちを見守ってほしいと思っっています。目に付く範囲で構わないので、悲惨な事件を一つでも防げるのではないかと考えます」

記者は例会後、何人かから感想をもらった。ある女性会員は「自分は親に愛情をたくさんもらって育ったので、娘や孫に愛情を注ぐことができる」と愛される体験を持つ大切さに改めて気付いたようだ。男性会員は「ちょっとしたことからもこの家庭でも児童虐待が起こりえると考えさせられた。学校などで啓蒙活動の教材にも使えるのでは」と映画の活用方法を提案した。児童虐待を防ぐために私たちは何ができるのか。「見守って」という中村さんのメッセージを心に留めておけば「見過ごすのはやめよう」という思いにつながり、次の行動に移れるかもしれない。中村さんは今後、チャリティー上映会の開催を予定している。問い合わせはフェイスブック「さぬき映画祭2022映画『地蔵調査官』」。



映画「地蔵調査官」のポスター—中村心太さん提供